



## お家の方へ 絵本の読み聞かせをしてくださっている、 大岡さんからのメッセージ

長い間子どもと係る仕事をしていて、1番大事に思っていることは、ひとり一人の子どもが「愛を実感することができるように」ということだ。それは、自分がそこにいていいのだという強い安心感、まわりの人から大事にされているという充実感、そして自分がそこにいて、まわりの人もなんだか幸せそうという使命感のようなもの。それらを日々感じながら大きくなってほしいということ。「愛の学習」とも言い換えることができる。

しかし現実には、そうはいかないことの多い、厳しい現状だ。子どもたちの悲しい事件を見たり、聞いたりしない日がない。だからといって、あきらめてしまうわけにはいかない。何かできないものか。つらく悲しい現実だからこそ、伝えなければならないことがある。今、私にできることから始めなければ...

それは私が今まで生きてきて、本当に幸せだったこと、悲しかったこと、うれしかったこと、いろんな体験の中から生まれた大切なこと...。今、感じているそれらのことを、一人でも多くの子どもに話したい。伝わるか、伝わらないかは別として、わかりやすい言葉で、心をこめて話そう。恥ずかしい気持ちもあるけれど、大好きなわらべ歌と絵本と私の気持ちとをセットにして話してみたい

と、漠然としているけれど、強い気持ちから今回の絵本の読み聞かせは始まったわけです。お仕着せにならないよう、謙虚な気持ちを忘れずにしたいと思っています。おもしろくても、おもしろくなくても、ちょっとだけ耳を傾けてほしい。聞いてくれて、私といっしょに考えてくれてありがとう、という気持ちを込めて話していこうと思います。

大岡 悦子